



当プレスニュースレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

平成 21 年 11 月 20 日
東京文化発信プロジェクト室
(財団法人東京都歴史文化財団)

今月のテーマ ＊地域・コミュニティ



『東京アートポイント計画』ディレクター&アーティストに聞く

コミュニティとの共生をめざす『墨東まち見世2009』

東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶ『東京アートポイント計画』。

計画全体を統括するディレクターの森 司さんと、開催中のプロジェクトのひとつ、

『墨東まち見世 2009』のコアメンバーである劇作家・岸井大輔さんにお話を伺いました。

——まず、現在進行している『東京アートポイント計画』とはどういうものですか？

森 アートを核に、市民とアーティストが協働する場を各地に作り出し、総体として大きな文化パワーを創造・発信していこうというものです。入り口は「まち」であったり、「人」であったりと異なりますが、東京の様々な場で、人・まち・活動の3つが揃い、関わり合うことで「アートポイント」を形成していくという姿をめざしています。『東京アートポイント計画』の一環として今年度からスタートし、若い担い手を育てるインターン・プログラム『シッカイ屋』や新しいカタチのアートな防災訓練『イザ！カエルキャラバン』、さらに『アーティスト・イン・児童館』やレクチャー・シリーズ『Tokyo Art School』など多数の活動がありますが、中でも、私たちがやろうとしていることを最も密度高く実践しているのが、岸井さんに関わってもらっている『墨東まち見世2009』です。

岸井 今、墨田区京島にある“キラキラ橋商店街”の店舗を「墨東まち見世ロビー」と名付けて活動しています。『墨東まち見世2009』では、墨東エリア一帯で17組のアーティストが参加していますが、単に訪れる人に見ても



きしい だいすけ
岸井 大輔
劇作家／playworks 主宰

らうことだけを目的にしているのではありません。アーティストの表現をきっかけに、地域の人々の行動も変わっていきます。例えば、私のいる「ロビー」でも、地域の人々が自主的に壁塗りをし、「ロビー」に必要なものを持

ち寄ってくれたり、お茶菓子を差し入れてくれたり。そのことも作品の重要な部分なんです。

——劇作家である岸井さんに依頼した理由とは？

森 この計画を考えていく中で私は、アートポイントの母胎となる“アジール（侵されない場、聖域）”的な場が必要だと考えていました。これまでのまちなかアート活動では“ミッション”的なやり方が多く見られましたが、そこでは、場や目的に合ったふるまいが求められます。しかしアジールはあらゆるふるまいが許される、



もり つかさ
森 司
『東京アートポイント計画』ディレクター
東京文化発信プロジェクト室地域文化交流推進担当課長

自由でクリエイティヴな場所。今、地域や社会の中でそのような場がどんどんなくなっています。岸井さんはずっと、まちに入ることで表現行為に取り組んできた人。初めて話した時に、アジールを創造する必要について大変に共感を得ることができました。

岸井 僕は、人が集まることで劇が生まれるのだと思っているんです。例えば、新宿のような繁華街も、そこに集う人それぞれが「新宿」という「劇」を構成しているように僕には感じられる。けれど最近不安なのは、古いまちでも、神社や広場など皆が集う場が急激に消えていくこと。すると、まちが劇を演ずるのをやめてしまいます。コミュニティの中に新たなアジールを創りださねばなりません。

『東京アートポイント計画』

『墨東まち見世 2009』は12月9日(水)まで曳舟・京島・東向島・八広・押上エリアで開催。
詳細は www.machimise.net



アートが、地域の人間関係の扉を開く

——「墨東まち見世ロビー」は、このアートイベントの中でどんな役割を担っていますか？

岸井 僕は、会期が終了する12月9日まで、100日間ここで生活しています。近所の人たちと仲良くなることから始めてました。といっても、特別なことをするのではなく、朝起きて掃除し、訪ねてくる人とお茶を飲んだりしています。商店街の店舗を常にオープンにしています。地域の住人もそうでない人も、来た人がやりたいことの相談にのり、実現への道筋をつけていきます。オジサンたちのためのバレエ教室や、ダンス、屋台パフォーマンス、商店街振興のための商品開発など、アートにできることはなんでもやっていきます。こうした行動自体が「作品」なんです。

森 「ロビー」は、地域にひらかれた「エントランス」であると同時に、ある世界観への「入り口」でもあります。最初は、何をしているのか見えにくいかもしれません。時間はかかります。僕はアートプロジェクトを、新たな関係性を作り出すためのアプリケーションと考えます。それが20世紀型のシステムに乗りにくいなら、新しいシステムを作ればいい。アートプログラムは新たな21世紀型システムを作るためのツールになるはずです。「墨東まち見世」では、21世紀型システムを創造し定着させるためのモデルを作ろうとしているんです。

——100日間暮らすというのは長いですね。

岸井 “待つ”ことが大切です。地元の人に関わったり、本当にやりたいことを伝えたりしてくれるのを待つ。僕は、そのひとつひとつを実現する枠組みを作っているだけです。期間が終わって僕が去った後、ここが“劇”の場に

なっていくよう、100日かけてしくみを作っていく。やがて上演される、このまちの劇に向け、今は、脚本を書き続けているともいえます。

森 アートポイントを作るには、アジール的な場のありかたを知っている人間が必要です。その場の空気や記憶は写真に写せないし記述にも残りません。触れることでしか伝わらないものです。この100日間で、1週間でも1カ月でも関わった人は、その意味を感じ取り、終了後、それぞれの人たちが関わる地域で別のアジール的な場を作り出したたり、人に伝えたりすることができます。そうした「アートポイント」が各地に芽を出し、社会の中で見えるようになるまでには3年や5年にかかるでしょう。僕たちは、まずはここでパイロット的な環境を作り、やがて「アートポイント」が各地で起動しはじめるのを一所懸命に待っているんです。

——東京文化発信プロジェクトとして行う意義とは？

森 コミュニティの文化とは、区や町の枠組みを超えたところに生まれるものです。『東京アートポイント計画』も都の事業として行うことで区割りを越えられる。もちろん、今後は区市町村との連携も探っていくつもりです。「墨東まち見世」は3年計画で続けていく予定ですし、今後も様々なエリアでのプロジェクトを予定しています。期待してください。



「鳳凰の舞保存会」会長・宮野憲一さんに聞く

市井の人々が育んだ江戸・東京地域の芸能

多摩川の上流に位置する西多摩郡日の出町。

『鳳凰の舞』は、その最東部・下平井地区に代々伝わる民俗芸能です。雨乞いの祭りとして代々受け継がれ、現在では毎年9月末の週末に地元・春日神社の秋祭りで披露されています。

今ではこの下平井地区も、外の地域から移り住む新しい住民の方々がほとんど。それでも「鳳凰の舞」がすたれないのは、そんな新しい住民の方々にも支えられているからです。

この地区では、男の子は中学1年になると「鳳凰の舞」を教わるのが習わし。毎月第2土曜日に集会所に集まり、大人に混じって練習に励んでいます。そんな土地柄なので、地域の人々ならほとんどの方がこの舞の心得があるのではないのでしょうか。役員30人からなる保存会は、そのバックアップをする役割です。まず、住民が楽しんで参

加しているというのが、継承され続けている大きなポイント。それが国の重要無形民俗文化財の指定へと結びついたのだと思っています。

「鳳凰の舞」は10人が円を描きながら踊るとてもダイナミックな舞です。だから祭りでは別ですが、舞台では20～30代の若い世代の踊り手が中心。11月21日の東京発・伝統WA感動 民俗芸能公演『東京・江戸の賑わい』でも、力強い舞を披露します。これからも若い人材を育てていきたいですね。



「鳳凰の舞」



東京の外国人が見る“東京文化”

谷中の町から心に響くアートを伝えたい

芸術大学の学生だった頃、初めて訪れた日本で日本画と出会い、以来、日本画家として生きる道を選んだアメリカ人のアラン・ウエストさん。日本での生活も28年が過ぎ、アトリエを構える谷中でも地元の人々に馴染んでいるウエストさんに、地域に根ざした創作活動について伺いました。



Allan West

アラン・ウエスト

1962年アメリカ生まれ。82年の初来日時に日本画と出会い、その後、東京藝術大学大学院に入学。自然美の力強さを表現すべく、版画・屏風・掛軸等の作品を生み出している。

日本人の持つアート感に対する共感

私が日本で作家活動をしようと決めた理由のひとつに、日本人の文化的関心レベルの高さがあります。例えば、好きな画家や演奏家を聞くと大概の人が答えられる。それに比べてアメリカは、アートに関心のない人が大半。アートは特殊な人だけのものとか、反社会的なものというイメージが強いんです。でも私は、アートこそ社会や人のメンタルな部分を満たす役割を担うと思っていて、衣食住の安定だけを求める生き方は生命体としてのニーズは満たしても、「生きる喜び」は見出せない。そういったことの意味を日本人は理解しているのではないかと思います。

谷中にアトリエを構えたのは約10年前。寺町で落ち着いている点や、季節感のあるところが気に入りました。このアトリエは町工場をイメージしていて、外からいつでも作業の様子が窺えるようになっています。というのは、日本画への関心が薄れていくのが残念で、なんとか広めていきたい、でも押しつけではなくて魅了することで関心を持ってもらいたいという願いがあったから。日本画に難しいイメージを持っている人が多いですが、そうではないことをアピールしたくて、あえて制作現場も技もオープンにしています。

町と人々があってこそ生まれる社会の“織物”

こういったオープンなアトリエなので、近所のお年寄りや子供がいつも声を掛けてくれる。そんなコミュニケーションを楽しんでいます。この町の魅力は、同じ人との間にいくつもの接点を持てること。例えば、子供の同級生の親は我が家がよく行く豆腐屋だったり。そういう接点が増えると、頑丈で美しい社会の“織物”ができる。町という縦糸と人々という横糸がうまく絡まり合っているんですね。

東京は、長い年月をかけてその地域ならではの良さや、個性を育んだ町が集まって発展した都市。電気街の秋葉原や古書街の神保町というように、個性的な町が結集していますよね。そういう視点で東京の文化を見ることは面白いと思います。

さらに日本画や谷中の魅力を紹介していきたいですね。数年前には谷中近辺の床の間を公開する『床の間巡り』というイベントを行いました。朝倉彫塑館やお寺、お店を回るというもので、私のアトリエでも壁の一面を床の間にしつらえ、ゲストによる薩摩琵琶やオペラのパフォーマンスを公開しました。このようなイベントは今後もぜひやってみたいですね。



紫陽花や芍薬といった身近な花がダイナミックに描かれた作品例。

データで読み解く“東京文化”



—NPO法人編—

都道府県別所轄庁でのNPO法人認証数

1位 東京都	6,358団体
2位 大阪府	2,629団体
3位 神奈川県	2,411団体
4位 北海道	1,544団体
5位 千葉県	1,453団体

東京のNPO法人の活動分野の割合

学術・文化・芸術又はスポーツの振興を図る活動	約36%
まちづくりの推進を図る活動	約31%
子どもの健全育成を図る活動	約38%

*定款に記載される特定非営利活動は17種類で、複数選択が可能。

出典：「内閣府 NPO ホームページ」
<http://www.npo-homepage.go.jp/index.html>
 東京都「NPO法人ポータルサイト」
<http://www.npo.metro.tokyo.jp/>
 ※平成21年11月18日調べ

東京文化発信プロジェクトは、様々なNPO法人（特定非営利活動法人）とも協力して事業を推進している。東京都を所轄とするNPO法人は、現在認証されている全国38,405団体のうち6,358団体と、都道府県別認証数としては最も多く、全体の約17%に上る。次いで2位が大阪府、3位が神奈川県、4位北海道、5位千葉県と続く。

その東京のNPO法人の中でも、「学術・文化・芸術又はスポーツの振興を図る活動」を定款に掲げる団体は東京に2,281団体あり、全体の約36%を占める。「まちづくりの推進を図る活動」は1,958団体で約31%、「子どもの健全育成を図る活動」は2,394団体で約38%と、東京文化発信プロジェクトとも縁が深いカテゴリーのNPO法人は、それぞれ高い割合を占め、積極的な活動を行っている。

EVENT A La Carte

イベントアラカルト

東京文化発信プロジェクトの事業で、今後注目したいイベント、開催された公演のレポートなどを、本コーナーでご紹介いたします。

注目の イベント

フェスティバル/トーキョー09秋 おやじカフェ

おやじの魅力をダンスで堪能。名物『おやじカフェ』が開催中

今年の2月、『フェスティバル/トーキョー09春』で多くの人を魅了した『おやじカフェ』が、今秋パワーアップしてカムバック。現在、東京芸術劇場前の特設ドームにて、熱いパフォーマンスを繰り広げています。

このイベントでは、公募で集まった自称・おやじたち約20名がカフェ店員に扮し、“店長”ことダンサーで振付家の伊藤キムさん直々の“カフェ店員研修”によって身につけた極上のおもてなしを提供します。研修を通じて、年齢を重ねた自らの身体に新たな魅力を見出したおや

じたちは、ほぼ30分おきに行われるショータイムの中で華麗なダンスを披露。ダンス経験はもちろん、年齢や職歴も異なる男性たちが一丸となって踊る、まさに体を張ったパフォーマンスは圧巻です。

今回は、春に続いて参加の“先輩おやじ”組と、初参加の“ニューおやじ”組が登場。「カッコいいとカッコ悪いを兼ね備えた器の大きなオトコたち」からは目が離せません。

同イベントは、12月13日(日)までの土・日限定で開催されています。

開催日/11月21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)
12月5日(土)、6日(日)、12日(土)、13日(日)

場所/東京芸術劇場前特設ドーム

営業時間/12:00~22:00 *約30分おきにパフォーマンスを披露
入場料/無料(予約なしで入場可。)

ただし、ドリンク・フードのオーダーが必要)



上/揃いの給仕服に身を包んだおやじたちが踊り始めると、観客からも温かい手拍子が。
右/パフォーマンスの行われる特設ドーム。
(フェスティバル/トーキョー09春より)



©Masahiro Hasunuma

キッズ体験 レポート 1

アーティスト・イン・児童館
「ことばのかたち工房」

児童館が、地域の子供たちのアトリエに!

練馬区立東大泉児童館で開催されている『アーティスト・イン・児童館』は、児童館にアーティストを一定期間招待し、創作・表現のための作業場として活用してもらうプログラムです。11月14日に開催された「ことばのかたち工房」に伺いました。

「ことばのかたち工房」とは美術家・西尾美也氏のプロジェクト。古着を素材にして、「ことば」から連想される「かたち」を作り出してゆく創作活動です。取材当日も「開放感」「カルチャーショック」「蜘蛛の巣」といったことばをテーマとして、子供たちが自由な造形感覚で古着を繋ぎ合わせたオブジェを制作していました。

アーティスト・イン・児童館プログラム・ディレクターの臼井隆志さんは「先生と生徒の関係ではなく、遊びと創作、子供と大人との対等な関係の中での表現活動を支援している」と、主催の意義を語ってくれました。この工房は、毎月第2土

曜日に同所にて定期開催されています。



パフォーマンスキッズ・トーキョー

島の子供たちが体験する ダンス表現の面白さ

キッズ体験 レポート 2

昨年度から始まった『パフォーマンスキッズ・トーキョー』は、ダンス・演劇の世界で活躍するプロのアーティストを都内の小学校や文化施設に派遣し、子供たちと一緒に舞台作品をつくり、発表するプロジェクト。今年度は初の試みとして、三宅島と神津島の島しょで実施しています。

島しょエリアの第1弾となった三宅島では、演出家・小野寺修二氏が三宅小学校を訪問し、3・4年生と一緒に11月13日まで6回にわたるワークショップを行い、マイムをベースとした作品を創作し、最終日の14日には家族や島民が見守る中、発表公演を行いました。

一方、神津小学校では来年3月の発表公演に向けて、振付家・ダンサーの森下真樹氏と3年生とのワークショップが始まります。



左/創作中も真剣なまなざしの子供たち。
右/ワークショップの集大成となる発表公演の様子。

11月～2010年3月 主な事業スケジュール

	東京ならではの芸術文化の創造・発信	芸術文化を通じた子供たちの育成
11月	フェスティバル／トーキョー 09 秋 15日(日)～20日(金)「花は流れて時は固まる」 構成・演出・振付：黒田育世 (BATIK) にしすがも創造舎 15日(日)～22日(日)「個室都市 東京」 構成・演出：高山明 (Port B) 池袋西口公園 ※24時間オープン(予定) 16日(月)～23日(月/祝)「4.48サイコシス」 作：サラ・ケイン 演出：鮎屋法水 あうるすぽっと 19日(木)～22日(日)「赤鬼」 作：野田秀樹 演出：ブラディット・ブラサートーン【タイ】 東京芸術劇場小ホール2 ＊F/T参加作品 20日(金)～23日(月/祝)「農業少女」 作：野田秀樹 演出：ニコン・セタン【タイ】 東京芸術劇場小ホール1 ＊F/T参加作品 23日(月/祝)～27日(金) 「デッド・キャット・パウンス」 演出：クリス・コンデック【アメリカ/ドイツ】 にしすがも創造舎 25日(水)～29日(日) 「アジア舞台芸術祭 2009 東京」 東京芸術劇場中ホール、小ホール2 ほか ＊F/T 提携事業 26日(木)～29日(日)「フォト・ロマンス」 演出：ラビア・ムルエ、リナ・サーネー【レバノン】 東京芸術劇場小ホール1 13日(金)～12月20日(日)「F/Tステーション」／東京芸術劇場前 チケット、関連書籍やオリジナルグッズの販売。併設のカフェではイベントやライブを予定。 東京発・伝統WA感動 21日(土) 民俗芸能「東京・江戸の賑わい」 国立劇場小劇場 ラグジュアリー：ファッションの欲望 特別展示 妹島和世による空間デザイン/コム・デ・ギャルソン ～2010年1月17日(日) 東京都現代美術館 井上雄彦 エントランス・スペース・プロジェクト ～2010年3月28日(日) 東京都現代美術館 エントランス	
12月	フェスティバル／トーキョー 09 秋 1日(火)～6日(日)「演劇/大学09秋」 東京芸術劇場小ホール1／シアターグリーン 4日(金)～6日(日)「卵を立てることから一卵熟」 演出・振付・デザイン：天児牛大 (山海塾) 東京芸術劇場中ホール 5日(土)～13日(日)「太陽と下着の見える町」 作・演出：タニ/クロー (庭劇団ペニノ) にしすがも創造舎 「神曲―地獄篇/煉獄篇/天国篇 3部作連続上演」 演出：ロメオ・カステルッチ (ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ)【イタリア】 11日(金)～13日(日)『地獄篇』 東京芸術劇場中ホール 19日(土)～21日(月)『煉獄篇』 世田谷パブリックシアター 17日(木)～21日(月)『天国篇』 にしすがも創造舎	青少年のための舞台芸術体験プログラム 16日(水) 東京都交響楽団 「第 690 回定期演奏会」ゲネプロ公開 東京文化会館
2月	第2回 恵比寿映像祭 19日(金)～28日(日) 東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス センター広場 ほか	青少年のための舞台芸術体験プログラム 16日(水) 東京二期会「オテロ」ゲネプロ公開 東京文化会館 青少年のための舞台芸術体験プログラム 2月下旬予定 東京バレエ団「シルヴィア」 東京文化会館
3月	六本木アートナイト 2010 27日(土)～28日(日) 六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、国立新美術館、サントリー美術館、森美術館、21_21 DESIGN SIGHT、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース	パフォーマンスキッズ・トーキョー in 東京芸術劇場 7日(日) 発表公演／東京芸術劇場小ホール2 青少年のための舞台芸術体験プログラム 3月初旬予定 ニーナ・アナニアシヴィリ&グルジア 国立バレエ「ジゼル」または「ロミオとジュリエット」 東京文化会館 青少年のための舞台芸術体験プログラム 3月中旬予定 バリ・オペラ座バレエ団 「シンデレラ」または「ジゼル」／東京文化会館 キッズ伝統芸能体験 22日(月・祝) 発表会〔能楽〕／宝生能楽堂 キッズ伝統芸能体験 29日(月) 発表会〔日本舞踊／箏曲／長唄三味線〕 国立劇場大劇場 パフォーマンスキッズ・トーキョー in 西東京市保谷こもれびホール 30日(火) 発表公演／保谷こもれびホール 小ホール

アートプログラム

墨東まち見世2009／主に曳舟・京島・東向島・八広・押上エリア
9月1日(火)～12月9日(水) ※コア期間 11月21日(土)～12月6日(日)

○岸井大輔「墨東まち見世ロビー」
 ～12月9日(水)

○展示

～12月8日(火) EAT&ART TARO「向島佐詰アーカイブ」

～12月9日(水) ティトス・スプリ「小窓」

10月31日(土)～11月15日(日) パルコキノシタ個展「モンスター」

11月19日(木)～11月30日(月) 三宅航太郎「向島おしよくじプロジェクト展」

11月21日(土)～11月29日(日) SOURCE Factory「Source四人展」

11月22日(日)～11月27日(金) 小川「鳥目・鏡女展」

11月22日(日)～12月6日(日) 平岡直子「耳につまったものをめく展」

11月29日(日)～12月6日(日)

池田みどり(池田晶紀+三田村光土里)「インスタレーション 写真集『池田みどり』」

11月21日(土)～12月6日(日) KOSUGE1-16「Test track "Mukojima"」

11月21日(土)～12月6日(日) 北川貴好「amplitude 鳩の街ノ光」

○杉田このみ上映会

11月21日(土)～12月5日(土)「続・ふと木歩という名をおもう」

○イベント・ワークショップ

11月6日(金)～11月30日(月)

水内貴英「玉ノ井プロジェクト1 玉ノ井ひとやすみ書庫」

11月15日(日)～11月23日(月/祝) 村山修二郎「京島路地園芸術祭」

11月21日(土) 村山修二郎「鉢灯籠inマンモス公園」

11月22日(日) 大巻伸嗣「Memorial Rebirth in 京島・キラキラ橋商店街」

11月28日(土) 中里和人 フォトワークショップ「610 Dayseeing」

○墨東まち見世さんぽ

11月14日(土) ①屋台でぐるぐるアート散歩／②墨東文学さんぽ

11月22日(日) ③墨東まち見世早わかりさんぽ

11月28日(土) ④民家ビフォーアフターさんぽ／⑤墨東まちづくりさんぽ

12月5日(土)

⑥キラキラ食べ歩きさんぽ／⑦厳選! 長屋めぐりさんぽ／

⑧俳人・富田木歩ゆかりのまちさんぽ

○墨東まち見世・交流のサロン

11月28日(土) 第1回「アーティストが住むまちづくり」

12月5日(土) 第2回「96日目のふりかえりトーク」

LIFE ON BOARD TOKYO 09-10

11月28日(土)

江東区内部河川・新木場LIFE ON BOARD号視察クルーズ+ワークショップ
 中央区朝潮橋より江東区内部河川など

人材育成プログラム

インターン・プログラム「シカイ屋」

○インターン・ゼミ

12月5日(土)

講師: 徳仁美(オーストラリア大使館 広報文化部 文化担当)、

湯浅真奈美(ブリティッシュ・カウンスル アーツ・マネージャー)

東京ウィメンズプラザ 視聴覚室

1月9日(土)

講師: 作田知樹(Arts and Law代表)、

鳥本健太(アートディレクター、Office339代表)、足立区生涯学習センター 講堂

レクチャー・シリーズ「Tokyo Art School」／ヒルサイドプラザ

8月23日(日)～2010年3月13日(土)

11月22日(日)「プロダクションという方法」

浅井 隆(有限会社アップリンク社長・映画プロデューサー・webDICE編集長) ×

藤城 里香(無人島プロダクション代表)

12月12日(土)「特殊な東京」

アンドリュー・マール(フリーランス・ライター・編集者) ×

マーク・ダイサム(クライン ダイサム アーキテクト(KDa)・建築家)

1月16日(土)「『壁』の無い東京へ」

塚本 由晴(アトリエ・ワン/建築家) ×

安富 歩(東京大学東洋文化研究所教授/社会学者)

墨東まち見世 2009 関連トークイベント

「地域密着型アートプロジェクトの可能性」

11月23日(日・祝)

ユートリヤ(すみだ生涯学習センター) マスターホール

2009 年秋、墨田区の東に広がる墨東エリアのまちなかを舞台とするアートプロジェクト「墨東まち見世 2009」が 100 日間にわたって展開されています。11 月 21 日からコア期間となるこのプロジェクトもいよいよクライマックス。

関係アーティスト、スタッフ、サポーターが大集合して、延々6時間のリレートークを通じて地域密着型アートプロジェクトの持つ可能性をそれぞれの立場から検証していきます。

「まち で／が 遊べたか!？」

曾我高明(現代美術製作所) × 住中浩史(アーティスト/墨東まち見世 2009 事務局)

× パルコキノシタ(アーティスト)

「まちなかアートプロジェクトのコミュニケーション・デザイン」

岡部大介(東京都市大学 講師) × 森垣賢(デザイナー)

「4人のサポーターの本音。」

遠山元気 × 北條元康 × 井上美智子 × 大橋加誉

「社会と関わるアートとは?」

岸井大輔(劇作家/ playworks 主催) × 藤井光(アーティスト)

報告「イザ! カエルキャラバン! in 東京 vol.1—寺島」

野田明宏(象地域設計/一寺言問を防災のまちにする会)

車座談議「市井におけるアートの役割

～墨東の芸術見世は、まちやあなたのなにかを変えるのか?」

熊倉純子(東京藝術大学 准教授)

東京アートポイント計画とは

「東京アートポイント計画」は、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指しています。まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、川や防災などをテーマとしたプログラム、アートで人・まち・活動を結ぶための人材の育成プログラムなどを展開していきます。

■ 東京文化発信プロジェクト 概要 ■

東京文化発信プロジェクトは、東京ならではの芸術文化の創造・発信と、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベントやフェスティバル、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、まちとアートをつなぐ人材の育成事業、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

東京は、世界に通用する日本の伝統文化である浮世絵や歌舞伎などをはぐくみ、今も身近に実体験できる都市です。また近年では、様々なアーティストたちによる文化芸術の創造拠点になっているほか、アニメーションに代表されるポップカルチャーを次々と世界へ送り出しています。

アーティストと市民による創造的な活動とその成果の発信を通じて、東京が「文化芸術創造都市」であることを、国内だけでなく世界に強くアピールしていきます。

実施運営の統括は、財団法人東京都歴史文化財団の東京文化発信プロジェクト室が行っています。

東京文化発信プロジェクトは、東京都の「10年後の東京～東京が変わる～」(平成18年度策定)への実行プログラムとして改定された「『10年後の東京』への実行プログラム2009」(平成20年度12月策定)における、目標6「都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する」、施策32「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」の指定で、重点的に実施されています。

報道関係の方々へ

「東京文化発信プロジェクト広報事務局」を開設しました。
さまざまな切り口のプレスニュースレターを毎月発行し、
プロジェクトや各事業について情報提供をさせていただきます。
お気軽にお問合せいただきたく、よろしくお願いいたします。

<報道関係者からの問い合わせ先>

東京文化発信プロジェクト広報事務局 富樫／大原
電話：03-3818-2465 FAX：03-5689-0455
E-mail:tokyobunka@prinfo.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-24-8-11F

※プレスニュースレターは、下記からダウンロードすることができます。
<http://www.bh-project.jp/festival/jpn/pressnews/>

次号 (vol.5) の予告
特集テーマ：「現代・コンテンポラリー(仮)」
12月下旬発行予定の次号では、現代・コンテンポラリー
との関わりを切り口に当プロジェクトを紹介します。